

官報

號外 昭和十二年八月四日

○第七十一回貴族院議事速記録第七號

昭和十二年八月三日(火曜日)午前十時八分 開議

昭和十二年八月三日
議事日程 第七號

昭和十二年八月三日
午前十時開議

第一 請願委員長報告

第二 船員法改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第三 人造石油製造事業法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第四 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第五 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第六 島原鐵道買收ノ請願

第一讀會

第七 静岡縣榛原郡下川根村ニ登記所設置ノ請願

會議

第八 潤棚線瀬棚、岩内線岩内ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願

會議

第九 姫津東線播磨新宮、若櫻線若櫻ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願

會議

第十 都市美審査委員會設置ノ請願

會議

第十一 街路照明統制ニ關スル請願

會議

第十二 廣告物取締ニ關スル法令改正
ノ請願

會議

第十二 廣告物取締ニ關スル法令改正
ノ請願

會議

第十三 咳痰ノ取締ニ關スル請願

會議

第十四 利根川治水工事施行ノ請願

會議

第十五 林道網計畫樹立實施ニ關スル請願

會議

第十六 造林國策樹立ニ關スル請願

會議

第十七 災害防止ノ林業施設計畫樹立ニ關スル請願

會議

第十八 町村特別稅段別割ニ關スル法律改正ノ請願

會議

第十九 土讚線阿波池田、豫讚本線川之江ノ兩驛間鐵道敷設ノ請願

會議

第二十 豫定線三明、能登三井間鐵道速成ノ請願

會議

第二十一 豫定線佐用、智頭間鐵道速成ノ請願

會議

第二十二 青森縣弘前市ニ國立氣象觀測所設置ノ請願

會議

第二十三 總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ請願

會議

第二十四 豫定線穴水、飯田間鐵道速成ノ請願

會議

第二十五 北陸本線花園信號場ヲ停車場ニ變更ノ請願

會議

○議長(伯爵松平頼壽君) 報告ヲ致サセマス
スル請願

會議

○議長(伯爵松平頼壽君) 報告書ヲ提出セリ

ス

(角倉書記官朗讀)

去月三十一日本院ニ於テ可決シタル左ノ政
府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

貿易及關係產業ノ調整ニ關スル法律案

貿易組合法中改正法律案

工業組合法中改正法律案

百貨店法案

酒造組合法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第一號

昨日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セ
リ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願委員會特別報告第一號

昨日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セ
リ

人造石油製造事業法案

帝國燃料興業株式會社法案

農村負債整理資金特別融通及損失補償法
案

人造石油製造事業法案

帝國燃料興業株式會社法案

農村負債整理資金特別融通及損失補償法
案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
請願文書表(第二回報告)

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
請願文書表(第一回報告)

○議長(伯爵松平頼壽君) 是ヨリ會議ヲ開
キマス、日程ニ移リマス、日程第一、請願
委員長報告、委員長酒井伯爵

(伯爵酒井忠克君演壇ニ登ル)

○伯爵酒井忠克君 請願委員會ノ第一回報
告ヲ致シマス、去ル七月二十七日ニ正副委
員長ノ互選ヲ行ヒマシテ、引續キ會議ヲ開
キ、次ノ諸事項ニ付テ議決致シマシタ、其

一委員ヨリハ、今迄政府ガ計畫セラレテ居ル觀測所ハ、大體表日本ヲ主トシテ考ヘラレテ居ラレルヤウデアルガ、此ノ請願ハ裏日本ニ關スルモノデアルガ、之ニ對スル根本ノ考ハドウカ、之ニ付テ政府ノ御答ハ、國費ノ許ス限り成ルベク速カニ、今後必要性ノ多イ所カラ著々トヤツテ行キタイト思ツテ居ル、只今ノ御意見十分考慮致シテ、其ノ備ヲ致シテ置キタイト思フト云フ御答デアリマシタ、又去ル七十議會ニ青森縣鰐ケ澤ニ國立氣象觀測所設置ノ請願ガ出タガ、是ハ本院委員會ニ於テ採擇シテアルノデアル、然ルニ又同縣下ノ弘前ニ同一請願ガ今度出テ居ルノデアル、文部當局トシテハ之ニ對シテドウ考ヘテ居ルカ、ドッヂガ宜イト思フカト云フ御問デアリマス、デ答ハ、鰐ケ澤ノ測候所ハ昭和十三年度ノ豫算ニ其ノ費用ヲ計上シテ要求シタイト思ツテ居ル、併シ他ノ地方デモ必要ト認メテ災害豫防ノ策、航空、軍事等ノ爲ニ供シタイト思ツテ居ル、又一委員ヨリ青森ニ本年度新設セラル、觀測所ト、來年度新設セムトシテ居ル鰐ケ澤ト、此ノ二ツハ非常ニ必要ナ所デアルヤウニ申サレルガ、又茲ニ同一縣下ニ一ツノ觀測所設置ノ請願ガ出テ居ルガ、是等ニツラ圖上ニ於テ見ルト、非常ニ僅カナ距離シカ隔ツテ居ナイガ、前二者ヲ最モ必要トシテ政府ハ認メテ居ルノニ拘ラズ、今度ノ此ノ請願ニ付テ實際ニ之ヲ作ル意思ガアルノカ、無イノカ、無ケレバナイト率直ニ言ツテ貴ヒタイト云フ御問デアリマス、之ニ對シマシテ、弘前地方ニモ斯ウ云フモノヲ設ケルノハ適當デハナイカト考ヘマシテ、本請願ニ付テハ極メテ結構ト存ジテ居ル次第デゴザイマスト云フ御答デアリマシタ、以上ノ如キ質

○議長（伯爵松平頼壽君）　陸軍大臣ヨリ發言ヲ求メラレマンシタ、之ヲ許可スルコトニ
御異議ハゴザイマセヌカ
「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長〔伯爵松平頼壽君〕 直チニ之ヲ許可
致シマス、杉山陸軍大臣

○國務大臣(杉山元君) 今般通州ニ勃發致
〔國務大臣杉山元君演壇ニ登ル〕

シマシタル事件ニ付テ申上ゲマス、御承知
ノ如ク通州ハ冀東方共自治政府ノ所在地デ

アリマシテ、治安維持ニハ同政府ノ保安隊
ガ任ヅテ居ツクハリマス、元來比ノ保安

六住ミテ居リテアリマス元來此ノ併安
隊ハ我ガ方ニ好意ヲ有ツテ居リマシテ、七月

二十七日、通州城外駐屯ノ第二十九軍ノ部隊ノ武装解除ヲ致シマスル際ニ於キマシテ

モ、我ガ軍ニ協力ヲ致シテ居リマス、又塘沽ノ對岸大沽ニアル支那軍攻撃ノ時ニモ我

ガ軍ト協同動作ヲシタノデアリマス、我方居留民ハ平時内地人約百十名、鮮人約百八

十名デアリマシテ、我ガ駐屯軍ハ常ニ一小
部隊ヲ守備ニ任ゼンメテ居ツタノデアリマス

吉田、内三百八一名と曾田ノ故ノマニニ、ルガ、此ノ事件ガ勃發ヲ致シマシタ當時ハ、

居留民ハ約三百八十名ニ増加テ致シマシテ
我ガ軍ハ守備隊其ノ他ヲ合シマシテ約百名

ニナツテ居ツタノデアリマス、七月二十九日
午前三時過ギニ、我ガ通州守備隊ハ突如叛

亂セル冀東保安隊ノ襲撃ヲ受ケマシタノデ、直チニ之ニ應戰致シマシタ、敵ハ其ノ兵力少

クモ一千名デアリマシテ、守備隊ノ四周カラ
攻撃シテ來マシテ、我ガ有線電信ハ敵ノ爲ニ

至ツタノデアリマス、我ガ守備隊ハ各兵舍及倉庫ヲ頑強ニ守備致シマスルト共ニ、一部ノ出撃ヲ行ヒマシテ、侵入致シマシタル敵ヲ撃退シタノデアリマスルガ、敵ハ午前十時至ツタノデアリマス、併シナガラ我ガ守備隊ハ之ニ屈スルコトナク、愈々士氣旺盛ニ抗戦ヲ續ケマシテ、傭人マデ銃ヲ執テ應戦シタノデアリマス、正午稍過ギ構内ニ集積ラシテアリマシタ「ガソリン」ニ火ヲ發シ、又第一線ニ送ルベキ銃砲弾ヲ積載致シテ居リマシタ自動車モ敵ノ砲弾ガ命中致シマシテ、十七輛ヲ全部燒失致シマシテ、銃砲弾ノ自爆ハ約三時間ニモ瓦ツテ居ツタノデアリマス、當日我ガ駐屯軍ノ主力ハ北平周邊ニアリマスル支那軍掃蕩ヲ實施ラシテ居ツタノデアリマスルガ、通州ノ守備隊ガ襲撃ヲ受ケテ苦戦ニ陥ツテ居ルト報告ガアリマシタノデ、軍司令官ハ直チニ飛行隊ヲ救援ニ出動セシメマシテ、通州附近ノ情況偵察竝ニ支那軍ノ爆撃ニ任ゼシメタノデアリマス、敵ハ此ノ爆撃ニ依リマシテ一時沈黙シタノデアリマスルガ、夜ニ入りマシテ依然兵營周圍ノ土堤ニ據リマシテ攻撃ヲ繼續ラシテ、云フコトヲ承知ヲ致シマシテ、直チニ南苑ノ敵ヲ追撃中デアリマシタ河邊部隊ヨリ萱島部隊ヲ引抜イテ通州ノ救援ニ急行セシメタノデアリマス、我ガ守備隊ハ萱島部隊増援ノ通報ヲ受ケマシテ士氣遽カニ揚リマシ

テ防戦はレ努メマンシタノト、次イデ實施ヲ
サレマシタル我ガ飛行隊ノ爆撃ノ甚大ナル
效果トニ依リマシテ、兵營四周ノ敵ハ漸次
退却ヲ始メタノデアリマス、増援ニ派遣サ
レマシタ我ガ萱島部隊ハ三十日ノ午後四時
二十分ニ到著致シマシテ、直チニ殘敵ヲ攻
撃シテ市内ノ掃蕩ヲ行ヒ、漸クニシテ各城
門ヲ占領スルコトガ出来タノデアリマス、
爾來私共ハ居留民ノ安否ニ付テ非常ニ憂慮
ヲ致シテ居ツタノデアリマスルガ、電信電
話線ハ悉ク切斷ヲセラレ、無線通信モ何等
ノ應答ナク、飛行機モ亦天候及敵兵ニ阻マ
レテ利用スルコトガ出来マセヌ、加フルニ
連絡スルコトガ出來ナカツタ爲ニ、情況不明
デ焦燥ト憂慮ノ中ニ經過ラシテ居ツタノデ
アリマスルガ、三十一日ノ夕方ニナリマシテ、
他ハ不明デアルト云フコトダケヲ知リ得タ
ノデアリマス、爾後種々眞相ノ調査ニ努メ
漸ク居留民六十名ヲ收容シ得タケレドモ、
マシタノデアリマスルガ、現地ニ於キマシ
テハ敵ノ行動、天候、地形等ニ妨ガラレマ
シテ、人ヲ派遣スルコトモ出來ズ、銳意努
力ノ結果、漸ク昨二日飛行機ニテ通州ニ赴
キマシタル軍司令部ノ幕僚ノ報告ニ依リマ
シテ、概ネ其ノ真相ガ判明致シマシタ次第
ノ勃發シマスル迄ハ何等其ノ徵候ヲ認メマ
セヌデ居リマシタノデ、各、自宅ニ居リマ
シタル爲ニ敵ノ恣ニ襲撃スル所トナリマシ
テ、多數ハ殺害セラレタモノノヤウデアリ
マスルガ、中ニハ能ク敵ノ手ヲ遁レテ守備
隊ヘ逃リ著イタ者モアリマシタ、敵ハ我ガ
居留民ニ對シマシテ、言語ニ絶スル暴逆ナ

ル行動ヲ敢テ致シマシテ、其ノ大部分ヲ城
門外ニ拉致シマシテ、之ヲ慘殺ラシ、其ノ
殘忍ナル行爲ハ誠ニ耳目ヲ掩ハシムルモノ
ガアリマス、昨二日衆議院ニ於キマシテ
我ガ守備隊ニ收容セラレマシタル居留民ハ、
約百八十名ト申シタノデアリマスルガ、昨
日ノ調査ノ結果ニ依リマスルト、二日ノ夕
刻迄ニ收容シ得マシタモノハ内地人ガ男四
十名、女二十名、子供十一、鮮人ガ男十四
名、女二十一名、子供十八名、合計百二十
四名デアリマシタ、其ノ時迄ニ發見收容致
シマシタル屍體ノ數ハ約百三十デアリマス、
尙残餘ノ者ノ行衛ハ未ダ不明デアリマス、
我ガ特務機關ハ二十九日午前三時頃敵ノ襲
撃ヲ受ケマシタノデ、細木機關長ハ冀東保
安隊ヲ自ラ慰撫鎮壓セムト致シマシテ、冀
東政廳ニ赴キマスル途中ニ、政廳前ニ於テ
悲壯ナル戰死ヲ遂ゲタノデアリマス、又機
關員一同ハ甲斐少佐ノ指揮ノ下ニ防戰ニ努
メマシタガ衆寡敵セズ其ノ大部ハ遂ニ壯烈
ナル戰死ヲ遂ゲタノデアリマス、尙守備隊
ノ維持モ略、確實トナリマシテ、引續キ行
衛不明ノ居留民ヲ搜索中デアリマス、本事
件ハ殷汝耕ノ最モ信賴ラシテ居リマスル教
導總隊ガ支那軍ノ煽動ニ幻惑セラレマシテ、
第一、第二總隊ノ一部ヲモ誘ヒ込ミマシテ
惹起ラシタ兵變デアリマシテ、全ク豫想ラ
セナカツ所デアリマス、此ノ事件ガ二十八
日ノ夜ノ天津ニ於ケル夜襲ト同日ニ起ツ
テ居ルコトニ徵シマシテモ、第二十九軍ノ
計畫的暴舉デアルコトハ明瞭デアルノデア
リマス、叛亂ノ保安隊ハ三十日北平北方ニ
逃走致シマシテ、第二十九軍ニ合セムト致

シタノデアリマスルガ、我ガ軍ハ之ヲ北平
北方ニ於キマシテ攻撃シテ、約一千名ヲ武
裝解除ヲ致シマシタ、併シナガラ無事ナル
多數ノ同胞ガ暴戾殘虐ナル支那兵ノ手ニ掛
リマシテ、悲惨ナル最後ヲ遂ゲルニ至リマ
シタコトハ誠ニ殘念至極デ、私ノ最モ遺憾
トル所デアリマシテ、此ノ度犠牲トナラ
レタ方々ニ對シテ、衷心ヨリ哀悼ノ意ヲ表
スルモノデアリマス、之ヲ以テ終リマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、船員
法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一
讀會、田島政務次官
〔左ノ通牒文及法律案ハ朗讀ヲ經
サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下
之ニ倣フ〕

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
員法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年八月二日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

船員法改正法律案
第一條 本法ニ於テ船員トハ日本船舶ニ
シテ左ニ掲グル船舶以外ノモノニ乗組
ム船長及海員ヲ謂フ
一 船舶法第二十條ニ規定スル船舶
二 平水區域ヲ航行スル船舶
三 總噸數三十噸未満ノ漁船

前項ノ海員トハ左ニ掲グル者以外ノ乗
組員ヲ謂フ

一 船舶所有者以外ノ者ニ雇傭セラル
ル者

二 何人ニモ雇傭セラレズシテ業務ヲ
營ム者

第九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船
長ハ人命、船舶及積荷ノ救助ニ必要ナ
ル手段ヲ盡シ且旅客、海員其ノ他船内
ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非ザレバ
船舶ヲ去ルコトヲ得ズ

三 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者

第二條 船員、船員タラントスル者、船
舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船員タラ
ントスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管
掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニ
テ證明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 未成年者ガ船員ト爲ルニハ其ノ
法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ許可ヲ得タル者ハ雇入契約ニ關
シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
第四條 十五歳未満ノ者ハ船員トシテ、
十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシ
テ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ
以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 十八歳未満ノ者ハ勅令ヲ以テ定
ムル場合ヲ除クノ外船内勞働ニ適スル
コトヲ證明シ且署名シタル醫師ノ健康
證明書ヲ有スル場合ニ非ザレバ船員ト
シテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條 船員ハ船員手帳ヲ受有スルコト
ヲ要ス

第七條 船員手帳ノ交付、訂正、書換、保管及
返還ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第八條 船長ハ海員ヲ指揮監督シ且船内
ニ在ル者ニ對シ其ノ職務ヲ行フニ必要
ナル命令ヲ爲スコトヲ得ズ

送還費用ノ償還ニ關シ必要ナル事項ハ
之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合
ニ於テハ船長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
管海官廳ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要

ス
一 衝突、乘揚、滅失、沈没、火災、機關
船ニ危険ノ虞アルトキハ甲板ニ在リテ
自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ得ズ

ノ損傷其ノ他ノ海難發生シタルトキ
二 入命若ヘ船舶ノ救助ニ從事シ又ハ
航行中他ノ船舶ノ遭難ヲ知リタルトキ
三 船内ニ在ル者死亡シ又ハ行方不明
ト爲リタルトキ

四 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
五 船舶ガ抑留又ハ捕獲セラレタルト
キ其ノ他船舶ニ關シ著シキ事故アリ
タルトキ

十六條 船長ガ死亡シタルトキ、船舶
ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト
能ハザル場合ニ於テ他人ヲ選任セザル
トキハ運航ニ從事スル海員ハ其ノ職掌
ノ順位ニ從ヒ船長ノ職務ヲ行フ

第十七條 第二十一條、第二十三條、第
二十九條、第三十條及第三十二條ノ規
定ハ船長ニ之ヲ準用ス

第三章 海員

第十八條 海員ノ雇入契約ノ成立、終了、
更新又ハ變更アリタルトキハ船長及海
員ハ遲滯ナク管海官廳ニ出頭シテ其ノ
公認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ船長ガ公認ヲ受クル
コト能ハザルトキハ船舶所有者之ヲ受
クルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルト
キハ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコ
トヲ得

第十九條 海員ハ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ
受ケタル爲職務ニ從事セザル期間ニ付
テモ給料ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ疾
病又ハ傷痍ニ付海員ニ過失アルトキハ
此ノ限ニ在ラズ
海員ハ其ノ職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ
罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル場合ニ於テハ

前項但書ノ規定ニ拘ラズ疾病又ハ傷痍
ニ付海員ニ故意又ハ重大ナル過失ナキ
限り同項ニ規定スル給料ノ請求ヲ爲ス
コトヲ得

第二十條 海員ノ給料及手當ノ支拂方法
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十一條 船舶所有者ハ海員ノ乗船中
勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ食料ヲ支給
スルコトヲ要ス

第二十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ船舶ニ醫師ヲ乗組マシメ又ハ
醫療設備ヲ爲スコトヲ要ス
第二十三條 船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當
スル場合ニ於テハ海員ノ雇入契約ハ終
了ス

一 滅失又ハ沈没シタルトキ
二 全ク運航ニ堪ヘザルニ至リタルト
キ

第二十六條 期間ノ定ナキ海員ノ雇入契
約ハ船長又ハ海員ヨリ書面ヲ以テ二十
四時間ヲ下ラザル期間ヲ定メ豫告ヲ爲
ストキハ該期間ガ満了シタル時ニ於テ
終了ス

前項ノ期間ガ満了シタル時ニ於テ船舶
ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ旅客ガ上陸ス
ベキ港ニ碇泊中ニシテ其ノ港ニ於ケル
積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終ラザルト
キハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ終リタル
時ニ於テ雇入契約ハ終了ス

第一項ノ期間ガ満了シタル時ニ於テ船舶
ガ航行中ナルトキ又ハ前項ノ港以外
ノ港ニ碇泊中ナルトキハ第一項ノ規定
ニ拘ラズ船舶ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ
旅客ガ上陸スベキ次ノ港ニ到着シテ其
ノ港ニ於ケル積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸
ガ終リタル時ニ於テ雇入契約ハ終了ス

第二十四條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當
スル場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ム
ルコトヲ得

一 著シク職務ニ不適任ナルトキ
二 著シク職務ヲ怠リ又ハ職務ニ關シ
重大ナル過失アリタルトキ
三 疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ職務ニ
堪ヘザルトキ

四 船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込
合ニ之ヲ準用ス

第三項ノ規定ニ依リ海員ノ雇入契約ガ終了
スル場合ニ之ヲ準用ス

マザルトキ

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場
合ニ於テハ海員ハ雇止ヲ請求スルコト
ヲ得

一 船舶ガ國籍ヲ喪失シタルトキ
二 海員ガ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ
職務ニ堪ヘザルトキ
三 海員ガ船長ヨリ虐待ヲ受ケタルト
キ

第二十六條 相續其ノ他ノ包括承継ノ場
合ヲ除クノ外船舶所有者ノ變更アリタ
ルトキハ海員ノ雇入契約ハ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ雇入契約終了ノ時
ヨリ海員ト新所有者トノ間ニ從前ノ雇
入契約ト同一條件ノ雇入契約存スルモ
ノト看做ス此ノ場合ニ於テハ海員ハ第
二十六條第一項乃至第三項ノ規定ニ從
ヒ雇入契約ヲ終了セシムルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル雇入契
約終了ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 船舶所有者ハ海員ガ疾病ニ
罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタルトキ、雇入契
約終了シタルトキ又ハ死亡シタルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ扶助シ、
之ニ手當ヲ支給シ又ハ之ガ葬祭ノ費用
ヲ負擔スルコトヲ要ス

第三十條 船舶所有者ハ雇入契約終了シ
タル海員ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ雇入
港又ハ其ノ希望スル地迄送還スルコト
ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ送還ニ代ヘテ
其ノ費用ヲ請求スルコトヲ得
第三十一條 海員ハ船長ニ對シ其ノ勤務
ノ成績ニ關スル證明書ヲ交付ヲ請求ス
ルコトヲ得

スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 前條第一項乃至第四項ノ規
定ニ依リ海員ノ雇入契約が適當ナル海
員ヲ補充シ得ル港以外ノ港ニ於テ終了
スルトキハ船長ハ船舶が適當ナル海員
ヲ補充シ得ル港ニ到着シ積荷ノ陸揚及
旅客ノ上陸ガ終ル時迄雇入契約ヲ存續
セシムルコトヲ得

千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ違反シ人命ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡サザルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ外國ニ於テ海員ヲ遺棄シタルトキ

第五十五條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ違反シ自ラ船舶ヲ指揮セザルトキ

二 第十條ノ規定ニ違反シ告知ヲ爲サザルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ送還命令ヲ拒ミタルトキ

四 第十五條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

五 第十八條ノ規定ニ違反シ公認ヲ受ケザルトキ

六 商法第五百六十一条ノ規定ニ違反シ検査ヲ爲サザルトキ

七 商法第五百六十二条第一項ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カズ又ハ同條同項第二號乃至第五號ニ掲グル書類ニ記載スペキ事項ヲ記載セズ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

八 商法第五百六十三條ノ規定ニ違反シ船舶ヲ去リタルトキ

九 商法第五百六十四条ノ規定ニ違反シ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十六條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

令ニ違反シ水葬ニ付シタルトキ

二 第十三條ノ規定ニ違反シ遺留品ノ保管ヲ爲サザルトキ

第五十七條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二年以下ノ懲役ニ處ス

一 船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキ

二 管海官廳ノ呼出ニ應ゼズ又ハ管海上長ノ命令ニ服從セザルトキ

三 第二十三條第三項ニ規定スル場合ニ於テ人命、船舶又ハ積荷ノ應急救助ノ爲必要ナル手段ヲ爲スニ當リ

四 第四十二條第二項ニ規定スル管海官廳ノ處分ニ違反シタルトキ

三 當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌避シタルトキ

四 第六十三條 本章中船長ニ適用スペキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第五十條 海員ガ脱船シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ船員ガ勞働爭議ニ關シ團結シテ勞務ヲ中止シ又ハ作業ノ進行ヲ阻害シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第六十二條 船舶所有者又ハ乗組員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 本章中船長ニ適用スペキ規定ハ船員トシテ

第六十四條 船舶所有者ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ニ第二十條乃至第十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第六十五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ

○政府委員田島勝太郎君演壇ニ登ル
マシタ船員法改正法律案ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近時我ガ海運ハ長足ノ進歩發展ヲ遂ゲマシテ、社會情勢モ亦著シ

前項ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スル

第六十六條 本法及本法ニ基キテ發スル

第六十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 船員最低年齡法ハ之ヲ廢止ス

第六十九條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條 本法施行ノ際現ニ船員トシテ使用セラルル十四歳以上十五歳未滿ノ者ヲ本法施行後引續キ使用スル場合ニ

第六十一條 第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乘組員ノ監督ニ關シ地方長官ノ設ケタル規則ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

命令中船舶所有者ニ適用スペキ罰則ハ國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ之ヲ適用セズ

附 則
第六十二條 船舶所有者又ハ乗組員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 船員最低年齡法ハ之ヲ廢止ス

第六十五條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十六條 本法施行ノ際現ニ船員トシテ使用セラルル十四歳以上十五歳未滿ノ者ヲ本法施行後引續キ使用スル場合ニ

第六十七條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十八條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條 本法施行ノ際現ニ船員トシテ

第六十一條 第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乘組員ノ監督ニ關シ地方長官ノ設ケタル規則ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第六十二條 第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所

第六十三條 本章中船長ニ適用スペキ規定ハ船員トシテ

第六十四條 船舶所有者ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ニ第二十條乃至第十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所

第六十五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ

○政府委員田島勝太郎君演壇ニ登ル
マシタ船員法改正法律案ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近時我ガ海運ハ長足ノ進歩發展ヲ遂ゲマシテ、社會情勢モ亦著シ

前項ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スル

第六十六條 本法及本法ニ基キテ發スル

第六十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 船員最低年齡法ハ之ヲ廢止ス

第六十九條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十一條 第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル

第六十二條 第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル

ガ少クナインデアリマス、從ヒマシテ船員法
改正ノ要望ハ漸ク熾烈トナッテ參ッタノデア
リマス、斯カル情勢ニ鑑ミマシテ遞信省ニ
於キマシテハ、先年臨時海事法令調査會ヲ
設ケマンシテ船主及船員ノ團體ノ代表者ヲ初
メト致シ、關係各方面ノ官民相會シマシテ、
此ノ法律改正ノ審議ヲ行ヒ、其ノ結果改正
要綱ニ關スル決議ヲ得マンタノデ、今回此
ノ決議ヲ骨子ト致シマシテ、現行船員法及
商法中海員ニ關スル規定、並ニ船員最低年
齡法ヲ整理統一致シマシテ、之ニ適當ナル
改正ヲ加ヘ、他ノ方面ニ於キマシテ海運ノ
國際性ヲ考慮致シマシテ、曩ニ國際勞働總
會ニ於テ採擇セラレマシタ四箇ノ條約案即
チ船舶ノ滅失又ハ沈没ノ場合ニ於ケル失業
ノ補償ニ關スル條約案、海員ノ雇入契約ニ關
スル條約案、海員ノ送還ニ關スル條約案、或
ハ船員ノ最低年齡ニ關スル條約案ノ趣旨ヲ
採り入レマシテ、是等ヲ綜合致シマシタル
單一ノ船員法ヲ制定致シマシテ、時代ノ要
求ニ應ジ、以テ海上勞働問題ヲ調整シマス
ルト同時ニ、船員ノ生活ノ安定ヲ圖リマシ
テ、海運界ノ平和ト其ノ健全ナル發展トヲ
圖リタイト存ジマス、是レ本案ヲ提出致シ
マシタ所以デゴザイマス、尙本法律案ハ御
承知ノ通リ前議會ニ提出セラレマシテ、
衆議院ヲ通過致シ本院ニ回付ノ後議會ノ
解散ノ爲ニ審議未了ニナリマシタモノト
全ク同一ノモノデゴザイマス、何卒御審
議ノ上速ニ御協贊アラムコトヲ希望致シ
マス

○子爵戸澤正己君 只今議題ニナリマシタ
船員法改正法律案ハ重大ナル法案デアリマ
スガ故ニ、其ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、
議長ニ於テ指名アラムコトノ動議ヲ提出致

シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
(近藤書記官朗讀)

船員法改正法律案特別委員

侯爵西郷 從徳君 侯爵池田 宣政君
伯爵後藤 一藏君 子爵伊集院兼知君
子爵松平 保男君 子爵秋元 春朝君
男爵有地藤三郎君 白根 竹介君
今井田清徳君 男爵井上 清純君
男爵深尾隆太郎君 林 平四郎君
橋本辰二郎君 油井 德藏君
岩田 宙造君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第三、人造
石油製造事業法案、日程第四、帝國燃料興
業株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第
一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トスル
コトニ御異議ゴザイマセヌカ
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、吉野商工大臣

人造石油製造事業法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年八月二日 衆議院議長 小山 松壽

第五條 人造石油製造會社ノ營ム人造石
油製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地
ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ト
シ同法ヲ適用ス

人造石油製造事業法

第一條 本法ハ液體燃料ノ供給ヲ確保ス
ル爲人造石油製造事業ノ確立ヲ圖ルコ
トヲ目的トス

第二條 人造石油製造事業ヲ營マントス
ル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベ
キ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式
會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締
役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決
權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ
依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限
ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務
ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ
半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人
又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコト
ヲ要ス

第十條 許可ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金
ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金
額ヲ返還セシム

第九條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ
命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル
人造石油ニ付獎勵金ヲ交付スルコトヲ
得

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(人
造石油製造會社)ハ政府ノ指定スル期
間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ
限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコト
ヲ得

第十一条 人造石油製造會社ハ事業擴張
ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事
業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金
全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スル
コトヲ得

第十一條 人造石油製造會社ハ事業擴張
ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事
業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金
全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スル
コトヲ得

人造石油製造會社前二項ノ期間内ニ其
ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許
可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 人造石油製造會社ノ營ム人造石
油製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地
ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ト
シ同法ヲ適用ス

第十二條 人造石油製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 人造石油製造會社ハ命令ノ定期ム所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 人造石油製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

人造石油製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當

該官吏ヲシテ人造石油製造會社ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場

所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ販賣價格ノ變更其ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ改善ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ人造石油製造會社ニ對シ人造石油ノ製造ニ關スル特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 人造石油製造會社ハ其ノ所有スル人造石油ヲ政府ガ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ標準トシテ購入セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條 政府第二條ノ處分又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サンツルトキハ第五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 人造石油製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可

該官吏ヲシテ人造石油製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 人造石油製造會社第十六條所ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニシタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ行フ監査役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 人造石油製造會社左ノ各號ノニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタルトキ

二 第十三條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベシ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

四 第十五條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

一 第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

石油業法第八條第一項中「石油業委員會」ヲ「液體燃料委員會」ニ改メ同條第一項ヲ削ル

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法施行ノ際現ニ人造石油製造事業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第十五條第一項第三項、第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ人造石油製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

石油業法第八條第一項中「石油業委員會」ヲ「液體燃料委員會」ニ改メ同條第一項ヲ削ル

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十二年八月二日

帝國燃料興業株式會社法案
貴族院議長伯爵松平賴壽殿
衆議院議長 小山 松壽

帝國燃料興業株式會社法案

第一章 總則

以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ帝國燃料興業株式會社ヲ

代表シ其ノ業務ヲ總理ス

第一條 帝國燃料興業株式會社ハ人造石

油製造事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事

業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社ト

ス

第二條 帝國燃料興業株式會社ノ資本ハ

一億圓トシ内五千萬圓ハ政府ノ出資ト

受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第三條 帝國燃料興業株式會社ハ株金全

額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコ

トヲ得

第四條 帝國燃料興業株式會社ノ株金ノ

額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコ

トヲ得

第五條 帝國燃料興業株式會社ノ株式ハ

記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民

又ハ帝國法人ニシテ社員 株主若ハ業

務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本

ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ但シ

國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限

リ之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 帝國燃料興業株式會社ノ存立期

間ハ設立登記ノ日ヨリ五十年トス但シ

政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 帝國燃料興業株式會社ニ非ザル

モノハ帝國燃料興業株式會社又ハ之ニ

類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコト

ヲ得ズ

第二章 役員

第八條 帝國燃料興業株式會社ニ總裁副
總裁各一人、理事三人以上及監事二人

トヲ要セズ

第十四條 燃料興業債券ヲ發行セントス

ル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ

得

第十六條 燃料興業債券ハ無記名式トス

但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記

名式ト爲スコトヲ得

第十七條 燃料興業債券ノ所有者ハ帝國

燃料興業株式會社ノ財產ニ付他ノ債權

者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル

權利ヲ有ス

第十八條 帝國燃料興業株式會社ハ社債

借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ

命ジ其ノ任期ハ四年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ

ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ

選任シ其ノ任期ハ三年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ

選任シ其ノ任期ハ三年トス

營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可
ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦

同ジ

第二十四條 政府ハ帝國燃料興業株式會

社ノ業務ニ關シ監督上又ハ人造石油製

造事業ノ振興上其ノ他公益上必要ナル

命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ帝國燃料興業株式會

社ノ業務ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ

爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ帝國燃料興業株式會

社監理官ヲ置キ帝國燃料興業株式會社

ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 帝國燃料興業株式會社監理

官ハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社

ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢查

スルコトヲ得

第二十八條 政府帝國燃料興業株式會社

監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ帝國燃料興業株式會社

ノ業務ヲ監督ス

第二十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十五條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十六條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十八條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十四條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十五條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十六條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十八條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十五條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十六條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十八條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十四條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十五條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十六條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十八條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十四條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十五條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十六條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十七條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十八條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第七十九條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第八十條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第八十一條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第八十二條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第八十三條 帝國燃料興業株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

ト重油ノ生産ニ重點ヲ置キマシテ、幸ニ原料タル石炭ヘ我ガ國ニ於キマシテモ、亦滿洲國ニ於キマシテモノ相當豐富デアリマスカラ、日滿兩國ヲ通ジマシテ、差當リ七箇年計畫ヲ以チマシテ、各々年產百萬「キロリットル」ヲ生産セシメントスルモノデアリマス、申ス迄モナク此ノ事業ハ全ク新規ノ事業デアリマシテ、之ガ爲ニハ多大ノ努力ヲ要スルノデアリマスカラ、本事業ヲ政府ノ許可事業ト致シマシテ、政府ノ指導監督ヲ加へ、其ノ統制アル發達ヲ期スルコト致シマシテ、一面獎勵金ノ交付、租稅ノ免除等ノ保護助成ヲナシマシテ、斯ノ業ノ確立ヲ期スル爲ニ、人造石油製造事業法ナル法律ヲ制定スルコト致シタインデアリマス、更ニ此ノ事業ヲ遂行致シマスル爲ニハ、巨額ノ資金ヲ必要ト致シマシテ、其ノ圓滑ナル調達ニ對シマシテモ、適當ナル援助ヲ與フルノ必要ガアルノデアリマス、ソコデ政府ニシテ、資本金一億圓ノ特殊會社ヲ設立致サセマシテ、政府ハ之ニ對シテ五千萬圓ヲ出资致シマスルト共ニ、配當補給、社債ノ元利支拂ノ保證、租稅ノ免除等、特別ノ保護助成ヲ與ヘムトスルノデアリマス、之ガ爲ニ致シマシタ次第アリマス、以上ガ今般此ノ二ツノ法案ヲ提出致シマシタ趣旨ノ大要デアリマス、此ノ兩法案ハ御承知ノ通り前議會ニモ提出致シマシタノデアリマスガ、人造石油製造事業法案ニ付キマシテヘ、前議會ニ提案致シマシタモノニ多少ノ修正ヲ加へ致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審議

ノ上ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ致シマス
○子爵戸澤正己君 只今上程致サレマシタ
人造石油製造事業法案外一件ハ、重要ナル
法案デゴザイマスガ故ニ、其ノ特別委員ノ
數ヲ十八名トシ、議長ニ於テ指名アラムコ
トノ動議ヲ提出致シマス
○子爵西大路吉光君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
御異議ゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔近藤書記官朗讀〕
人造石油製造事業案外一件特別委員

○議長(伯爵松平頼壽者)	日程第五、農村 負債整理資金特別融通及損失補償法案、政 府提出、衆議院送付、第一讀會、有馬農林	實孝君	公爵山縣有道君
伯爵堀田	正恒君	男爵坂本	俊篤君
子爵大久保	立君	子爵井上匡四郎君	
子爵保科	正昭君	中川	健藏君
三井清一郎君		男爵岩倉	道俱君
男爵肝付	兼英君	橋本圭三郎君	
倉知	鐵吉君	下出	民義君
磯村豊太郎君		松本勝太郎君	
濱口儀兵衛君		上野喜左衛門君	

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第五、農村
負債整理資金特別融通及損失補償法案、政
府提出、衆議院送付、第一讀會、有馬農林
法案

右政事指掌事本附：於此可見一
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長伯爵松平賴壽殿
衆議院議長 小山 松壽

官報號外

昭和十二年八月四日

貴族院

元
詩

議事速記錄

農村負債整理資金特別融通及損失補償法案 第一讀會

農村負債整理資金特別融通及損失補償
法案
第一條 市町村又ハ産業組合中央金庫ハ
負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト
認ムルトキハ負債整理組合又ハ農村負
債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債
整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ
定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ
得
産業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融
通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合
法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ
行フ場合又ハ所屬信用組合ガ其ノ組合
員タル負債整理組合若ハ農村負債整理
組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事
業ヲ行フ法人ニ對シ負債整理資金ヲ融
通スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依
リ其ノ信用組合ニ對シ之ヲ爲スモノト
ス
日本勸業銀行、農工銀行又ハ北海道拓
殖銀行(以下融資銀行ト稱ス)ハ負債整
理組合ノ組合員、農村負債整理組合法
第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ
法人ノ組織者又ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ負債ノ整理ヲ爲ス者ニ對シ主務大臣
ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコト
ヲ得
第二條 市町村、産業組合中央金庫又ハ
融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通
ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日
ヨリ十年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法
施行ノ日ヨリ二十五年ヲ超ユルコトヲ

第三條 融資銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル
特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル貸付金額
ハ日本勸業銀行法第十八條又ハ農工銀
行法第十條ノ規定ニ拘ラズ其ノ擔保タ
ル不動産ニ付鑑定シタル價格以内トス
第四條 產業組合中央金庫特別融通及損
失補償法第三條及第四條ノ規定ハ產業
組合中央金庫ガ第一條ノ規定ニ依ル特
別融通ヲ爲ス場合ニ、不動産融資及損
失補償法第四條及第五條ノ規定ハ融資
銀行ガ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ
爲ス場合ニ之ヲ準用ス

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

利根川治水工事施行ノ件

東京市長小橋一太外五百四名呈出

右ノ請願ハ利根川改修工事ハ義ニ施行セラタルモ昭和十年九月大洪水ノ實情ニ微シ今尙破堤氾濫ノ危險勘カラサル爲沿岸住民ノ不安多大ナルニ依リ速ニ本川及枝流ノ根本治水工事ヲ政府ニ於テ直轄施行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

林道網計畫樹立實施ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎呈出

右ノ請願ハ林道ノ開設普及ハ森林資源ノ開發、林利ノ増進就中林產物生產費ノ大部分ヲ占ムル運搬費ノ輕減等林業振興上有效適切ノ施設ナルニ拘ラス未其ノ完備セル計畫ノ實現ナキハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ全國ニ瓦ル綜合的林道網計畫ヲ樹立實施シ以テ森林資源ノ利用厚生ヲ圖ルト共ニ農山村經濟ノ更生ニ資セラレタシト

ノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

造林國策樹立ニ關スル件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎呈出

右ノ請願ハ我國ニ於ケル木材ハ近年産業ノ振興特ニ纖維工業ノ發展ニ伴ヒ其ノ需

要年歲著シク增加セルニ拘ラス山村並其ノ關係業者多年ニ瓦ル窮乏困憊ノ爲早伐過伐ノ弊ニ陥リ甚シク植伐ノ均衡ヲ失シツツアルハ木材需給調節上ノミナラス國土保安上甚遺憾ナルニ依リ速ニ内外地及

ノ進展、國民生活ノ安定、福祉ノ増進ニ資セラレタシトノ趣旨ニシテ貴族院ハ願

意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

造林國策樹立ニ關スル法律改正ノ件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎呈出

右ノ請願ハ山林ニ對スル特別稅段別割ハ賃貸價格及收益ニ於テ格段ノ等差アル宅地、田畠ト區別セシテ課稅セラルル爲

其ノ負擔苛重ニシテ山林所有者ノ被ル打擊甚大ナルモノアリ仍テ明治四十一年法

律第三十七號地方稅制限ニ關スル法律ハ之ヲ改正シ本段別割制度ヲ廢止スルカ若ハ各種地目ヲ區分シ其ノ地租附加稅ニ準據セル賦稅額ヲ規定制限スルヤウ速ニ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

豫定線三明、能登三井間鐵道速成ノ件

石川縣羽咋郡富來町長柏谷貞治外十

七名呈出

右ノ請願ハ義ニ能登外浦地方開發ノ爲設立シタル能登鐵道株式會社ハ當初羽咋、輪島間ノ鐵道敷設ヲ目的トシタルモ中途財界ノ變動ニ遭遇シ三明驛以北ノ線路ハ遂ニ敷設免許失效トナリタルニ依リ豫定線三明、能登三井間鐵道ヲ速成シ以テ沿線地方ニ於ケル水、林、礦產等ノ資源開發ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ

願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

意見書案

土讚線阿波池田、豫讚本線川之江ノ兩驛間鐵道敷設ノ件

藤岡真兵衛外二十四名呈出

德島市前川町字前川二十一番地公吏

署間鐵道敷設ノ件

止施設ヲ講スルハ目下ノ急務ナルニ拘ラス未其ノ完備セル計畫ノ實現ヲ見サルハ甚遺憾ナルニ依リ全國ニ瓦リ綜合擴充セル之等災害防止ニ要スル林業施設計畫ヲ速ニ樹立實施シ以テ國民福利ノ增進ニ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

造林國策樹立ニ關スル法律改正ノ件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎呈出

右ノ請願ハ土讚線阿波池田驛ヨリ豫讚本線川之江驛ニ至ル鐵道ヲ敷設スルハ近ク開始セラルル德島、和歌山兩港間直接航路ト相俟テ地方產業ノ開發ニ資スル所大ナルノミナラス目下企畫中ノ八幡濱港、九州東部間直接航路實現ノ曉ヘ四國縱貫九州本土聯絡幹線ノ主要部分トシテ運輸交通並軍事上又須要ナルニ依リ之ヲ實現セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

造林國策樹立ニ關スル法律改正ノ件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎呈出

右ノ請願ハ山林ニ對スル特別稅段別割ハ賃貸價格及收益ニ於テ格段ノ等差アル宅

地、田畠ト區別セシテ課稅セラルル爲

其ノ負擔苛重ニシテ山林所有者ノ被ル打擊甚大ナルモノアリ仍テ明治四十一年法

律第三十七號地方稅制限ニ關スル法律ハ之ヲ改正シ本段別割制度ヲ廢止スルカ若

ハ各種地目ヲ區分シ其ノ地租附加稅ニ準據セル賦稅額ヲ規定制限スルヤウ速ニ改正セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年月日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

造林國策樹立ニ關スル法律改正ノ件

東京市赤坂區溜池町一番地全國山林

會聯合會會頭男爵小畠大太郎外一名呈出

右ノ請願ハ本邦特異ノ暴風、冷風、頑雪、津波、地這等ニ因ル慘害ハ年歲多大ニシテ國民生活ノ基礎ヲ脅威シ産業ノ發達ヲ

昭和十二年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

豫定線佐用、智頭間鐵道速成ノ件

兵庫縣佐用郡佐用町長鎌井丈太郎外

六百四十一名呈出

右ノ請願ハ豫定線佐用、智頭間鐵道ハ沿

線地方ニ於ケル豊富ナル農、林產資源ノ開發、沿線景趣ノ探勝等ニ寄與スル所多

大ナルノミナラス陰陽兩道ヲ結フ捷路トシテ軍事上竝運輸交通上亦緊要ノ線路ナルニ依リ速ニ之ヲ敷設セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十二年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

昭和十二年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

總武本線千葉、銚子ノ兩驛間電化促進ノ件

千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

右ノ請願ハ總武本線千葉、銚子兩驛間ノ千葉縣銚子市長川村芳次外十四名呈出

○議長(伯爵松平賴壽君) 是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告通り、採擇スルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認ヌマス、是ニテ全部日程ハ終了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第稟報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午前十時四十四分散會